

生物資源経済学研究室

STAFF

准教授 平児 慎太郎

生物生産経営学、生物資源経済学、食品経済学
生物生産経営学特論(大学院)、生物資源経済学特論(大学院)

准教授 平児慎太郎

研究テーマ

美しい農村景観を、取り戻す:棚田景観を「評価」してみよう

研究内容

日本の農業・農村にとっての棚田 -その保全・管理に向けた社会的な合意形成を目指して-

【背景】 日本では、国土面積の74%、農地面積や農業産出額の40%ほどが中山間地域(図1)に分布している。すなわち、日本の農業・農村を考える上で中山間地域は非常に大きな位置づけを占めている。これまで大規模で効率的な農業経営の展開が強く推進されてきたが、一方で中山間地域や島しょ部はこうした経営の展開が難しく、条件不利地域(Disadvantage area)とも呼ばれている。条件不利地域では、経営展開の困難さばかりでなく、農業集落の過疎化や耕作放棄地の発生などネガティブな問題が少なくない。

【棚田】 山の斜面や谷間の傾斜地(傾斜20分の1以上)に階段状に作られた水田であり、中山間地域に多く分布する。



図1 中山間地域のイメージ

引用：農林水産省HP
https://www.maff.go.jp/j/nousin/tyusan/siharai_seido/s_about/cyusan/
(2024/03/24確認)

【研究の着眼点】 これまでの研究成果では、例えば市民に支払意思額(WTP: Willingness to pay)-棚田の保全に対していくら支払う意思があるか?-を計測することにより、棚田の存在価値や保全価値を貨幣タムで評価してきた。

→これを**定量的(Quantative)**な分析という。

一方で、さらに分析枠組みが精緻化されてきた。その一つにテキストマイニング手法を用いた共起ネットワーク分析がある。当研究室の教員、大学生は、例えば市民に対して「棚田についてどのようなイメージを持っているか?」と尋ね、自由回答で得られたデータから語を抽出することにより、棚田に対するイメージや認識、語の共起性を解析している。解析の結果得られ

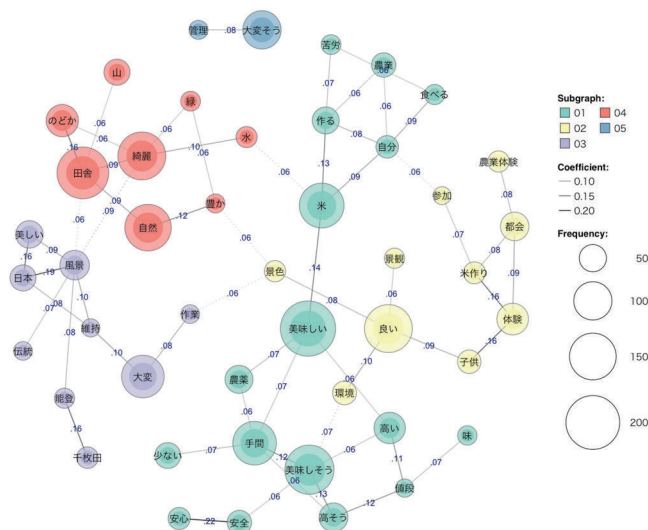


図2 棚田に対する共起ネットワーク図

被験者は富山県在住者589名に対し、棚田、棚田米、棚田オーナー制度に対するイメージを尋ねた。(2019/02に平児が実施)

語を囲むNord間を結ぶEdge上の数値は語の共起性を示すJaccard係数。

引用：日本環境教育学会中部支部会(2020/12)の報告資料より抜粋

た出力の一つ-共起ネットワーク図-(図2)を示す。棚田に対するイメージや認識を形成する語やそれらの共起性から、市民のどのような部分への訴えかけが棚田の保全・管理を促す上で有効かを検証している。

→これを**定性的(Qualitative)**な分析という。

【私たちが目指すもの】 ここまで述べてきたように、日本の農業・農村を考える上で、棚田の保全・管理のあり方が重要な部分の一角を占めている。さらに、近年、棚田を利用した農業体験やキャンプ、里山散策、ライトアップなど、地域活性化のコンテンツとして採用されることも増え、こうしたことへの対応へのcommitの仕方も考えることが求められている。

農学を学ぶことを通じて、農業・農村の“今の姿：置かれた状況”を正しく捉え、“将来の姿”について、地域活性化や地域経済のあり方も含めて考える…私たち生物資源経済学研究室の仕事はそのための“処方箋づくり”である。

最近の主な論文・著書／

- Shintaro Hirako, Yuki Yano (2024) : Measuring the Structure of German Citizens' Awareness of Landscape Conservation: The Case of Lüneburger Heide, *Scientific reports of the Faculty of Agriculture, Meijo University*, 60, 25-35.
- 上坂博亨, 堺勇人, 田開寛太郎, 神村佑, 小山泰弘, 中田崇行, 平児慎太郎(2022) : 中部支部大会報告・SDGsの視点から学会大会の取組みを見つめ直す・環境教育, 31(3), 55-60.
- 平児慎太郎(2018) : ドイツにおける景観保全に対する意識・リュネブルガーハイデを事例として・名城大学総合研究所紀要, 23, 113-116.
- 平児慎太郎(2018) : 沖縄北部3村における農業構造の変化・パインアップル缶詰の輸入自由化が及ぼした影響評価・名城大学農学部学術報告, 53, 1-7.
- 平児慎太郎(2016) : 岐阜県における耕作放棄地の発生要因・パネル分析による接近・開発学研究, 27(2), 64-69.
- 平児慎太郎(2016) : 遊休農地の発生要因と対応・岐阜県飛騨地域を事例として・開発学研究, 27(1), 2-9.